

宇美南中学校 JUMP!

3 学年通信

第14号

令和3年9月9日(木)

3学年チーフ 田口 裕之
文責 馬場 健太郎

福祉講座～防災講演・防災実習～

9月8日(水)の総合的な学習の時間では、「福祉講座」として、防災講座を行いました。日本赤十字福岡県支部 青少年赤十字担当の緒方様と白石様をお招きして、心肺蘇生法や緊急救急法について、リモートでの講演や実演をしていただきました。

2時間目に行った防災講演では、心肺蘇生法がなぜ必要なのかについてお話していただきました。小学校4年生の女の子が倒れたお父さんを助けた話や、避難所での高校生の活躍など、実例を踏まえてお話していただきました。みなさんと同じくらいの年代の方たちが、自分で考えて、行動していることを知ることができました。



3時間目に行った防災実習では、人形を使いながら、心肺蘇生法の実習を行いました。初めて心肺蘇生を行う人も多く、胸骨圧迫をリズムに合わせて行うなど、困惑することもありましたが、緒方様と白石様の指示に従って行うことができました。実際に目の前に苦しんでいる人がいたとき、その人を救うことで頭がいっぱいになると思います。そんな時こそ、今日の学習を思い出し、冷静に対処していきましょう。



胸骨圧迫！リズムに合わせるのが難しい…



協力して、藤本先生を運びました！

～みなさんの防災講座を通しての振り返り～

- 救急車が到着するまでに、平均 8,6 分もかかることを知りました。心肺が停止すると、1分ごとに生存率がどんどん低下することを知り、周囲の人が協力して助けることが大切だと感じました。(1組)
- 講演を聞いて、宇美町や他の県でも助け合って生きていて、小学4年生が親を救った話や高校生がおばあちゃんを運んだという話を聞いて、「どこに行っても人と人を繋いでいる心の絆が、とても深く、固く結ばれており、そのおかげで今の僕たちがいるんだ。」と思いました。(1組)
- 今回学んだ知識などを、いざとなった時に行動に移せるようにしたいです。また、ケガにもいろいろな種類があるので臨機応変に行動することを意識したいです。そして、非常持ち出し袋を準備していないので、家族で話し合って、非常事態に備えていきたいです。(1組)
- 私は、実際に人が倒れている場面に遭遇したことはないですが、これから、いつ、どこで、何があっても、自分の安全を確認したうえで臨機応変に行動できるようにしたいです。その中でも特に「胸骨圧迫」、「気道確保」、「呼吸確認」の3つを正しく処置できるようにしたいです。(1組)
- 心肺蘇生では、指を上げて、手の下の部分で圧迫する部分を 5cm ぐらいの深さまで押すということが分かりました。圧迫する回数は、1分間に 100 回～120 回ともものすごいスピードでしないといけないことが分かり、「強く・速く・絶え間なく」を意識して行きたいです。(2組)
- 胸骨圧迫をすることで、命を繋げることができ、希望をもっていたいと思いました。気道異物除去では、手を胸の前に重ねるという、世界共通の表し方があり驚きました。(2組)
- 熊本地震や東日本大震災など、大きな地震や災害が起こる前に避難バッグを備えておこうと思いました。今日学習したことを生かして、日常で倒れた人がいても対応できるような心構えを身に付けたいです。(2組)
- 一次救命処置は、心肺蘇生の他にも人工呼吸や気道異物除去、AED を用いた除細動などがあるので、しっかり正しい知識を身に付けて実践したいです。今日の学習を家族で共有し、命を救ってきたいです。(2組)

みなさんは、家族や地域で何かが起こった時とき、周囲の人を救うために行動できますか。身に付けた知識や技能は活用することで、今日の学習が価値あるものになります。日ごろから防災への意識を高めましょう！